

いこいの村 林ふさ子

題字 とくらの家

2015年(平成27年)2月20日発行

第393号

発行責任者 いこいの村聴覚言語障害センター

所長 柴田 浩志

編集 いこいの村編集委員会

〒629-1242

綾部市十倉名畑町久瀬谷2番地

TEL (0773) 46-0101

FAX (0773) 46-0610

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>

「綾部四団体」(聴覚障害者協会綾部支部、綾部市難聴者協会、綾部市手話サークル、綾部市要約筆記サークル)から

新名称『綾部ネットワーク』へ!



残念、短かった!



当日販売した「たからの里」のパンも完売し、その売上の10%をカンパしました!



皆で力を合せ、「うんとこしょ、どっこいしょ」



1月18日(日)、綾部市保健福祉センターで「第1回綾部ネットワーク交流会」が開催され、栗の木寮からは6名の仲間(利用者)が参加しました。

府聴言センター建設のカンパ活動の報告では、25万円を超える成果に皆さんから喜びの声がありました。3月まで引き続き、頑張ろうと確認しました。

昼食後の交流会では、クイズ・手話歌・身振りでの漫才・ミニゲーム・一人芝居などがあり、仲間からは、栗の木寮での新年会の報告や「大きなカブ」の手話劇を披露しました。毛糸の長さを競うゲームが楽しかったと、仲間から報告がありました。栗の木寮も綾部ネットワークの一員として、活動や交流会に参加していきます。

(いこいの村・栗の木寮
難波 学司/引原 直樹)

家族・地域とつながり続けられる 「いへの家」を目指して

いへの家は「住み慣れた地域で一人ひとりが大切にされる家」を目指して、平成23年4月に設立された認知症の方のための「グループホーム」です。

入居者は86歳から97歳の9名です。高齢者世帯や一人暮らしをされていた方々で、認知症により、鍋がしなど家事がうまく出来なくなった、高血圧・脳梗塞・糖尿病などの病気が悪くなり、大事な薬が飲めなくなるなど、見守りが常にならざるを得ない方々が入居しています。

認知症だからといって何もできなくなった訳ではありません。できるだけ自分たちで食事を作り、掃除、洗濯など昔からしてきたことを当たり前のように行います。農業経験のある方が多く、植え付

け・水やり・草引き・収穫と畑で野菜作りもしています。利き手が使いつらいなど体が不自由な方には、もう一方の手にハサミを持ちウエス切りを。生活の中でリハビリもします。



ええじゃがいもができますように

自宅の暮らしそのままだ

昨秋、大型台風の接近が危ぶまれる頃、入居された和枝さん(仮名)。ヘルパーと配食サービス、月数回のショートステイ、近所の方々の見守りが一人暮らしの毎日を支えて

いました。何より仕事の休みに帰省する家族の存在が気持ちの支えになっていました。

足が悪く、動きにくくなった体で、冬場、灯油ストーブや古いこたつで暖をとる暮らしは、大変危険で、離れて暮らす家族の一番の心配事でした。

生まれてから80年以上暮らししてきた自宅を離れることは、大きな不安や迷いが、本人だけでなく、家族にもありました。それでも台風の接近が、一人暮らしの不安を膨らませ、半ば避難的にとくらの家での暮らしを始められました。

入居後もヘルパーや家族に自宅での暮らしの様子を聞き、お腹の弱い和枝さんに暖かいお粥を出したり、まずは環境を整え、居心地よく過ごして貰えるよう支援しました。

徐々に慣れて「いられ、何かすることないか?」と食器洗

いや洗濯物たたみなど、他の方の分も含め、積極的にして下さるようになりました。



これは誰のシャツやい?

今でも「たまには家に帰りたい」と言われる和枝さん。それを聞いた他の入居者さんからは「いにおいったらご飯も食べられるし、お風呂もいつでも入れるで」と言われ、「ほやなあ」と答えられるひと暮もありました。正月前には家族と一緒に自宅に帰り、「ご先祖様のお参りを済ませて戻られました。

和枝さんのいへの家での暮らしは、朝、好きな時間に

起きてご飯を食べ、こたつでテレビを観たり、他の入居者としゃべりや歌を唄ったりと、とても自由です。表情も穏やかになり、一人暮らしでは欠かせなかった睡眠薬も要らなくなりました。

いへの家の役割は

入居者が地域の一員として何気ない日常生活を続けられるように支援すること。また地域の方々に『認知症になっても自分らしく暮らせる場所』があることを知ってもらうことだと思っています。

これからいへの家の四季折々の暮らしの様子を皆さんにお伝えしていきたいと思っています。

(高齢福祉部 グループホーム係 岡山里美)

聴こえの豆知識〜補聴器購入は慎重に！

補聴器の購入は慎重に！



前、補聴器の調子が悪く、近くの眼鏡屋に調整をお願いし、「直りました」と、返ってきましたが、一切改善されていませんでした。

それで、認定補聴器専門店へ出してみると、「部品が壊れていました」ということでした。やはり、補聴器に詳しいのは、認定補聴器専門店だと感じました。

どうして買うのが安心？

補聴器は、認定補聴器専門店で購入するのが安全です。私が利用している認定補聴器専門店はいくつも、相談に来る人であふれています。それは、補聴器の知識が豊富な認定士がいるからだと思います。ぜひ、購入時や補聴器が合わない等の悩みがある時は、専門店で試してみてください。

私自身の経験

私はふだん、補聴器をつけて生活しています。補聴器の購入やメンテナンスは認定補聴器専門店で行っています。以

前、補聴器の調子が悪く、近頃の眼鏡屋に調整をお願いし、「直りました」と、返ってきましたが、一切改善されていませんでした。

それで、認定補聴器専門店へ出してみると、「部品が壊れていました」ということでした。やはり、補聴器に詳しいのは、認定補聴器専門店だと感じました。



いこいの村栗の木寮

安井 将

みんなの手話

〈綾部〉

両手の指を重ねて、そのまゝ回す。

右手2指を、2指を立てた左手で握り、軽く振る。(綾部の大本教から)



いこいの村・梅の木寮
施設長
記 由美

「19人の旅立ち 〜かけがえのない学び〜」

梅の木寮に異動し、10か月が過ぎました。長い間、栗の木寮で仲間と一緒にしめなわや縫製品を作り、たくさん売って給料を上げようと頑張っていました。一変し老人ホームでの仕事。不慣れなこともあり、利用者の皆様にたいへん支えていただいています。この10か月の間に、19人の利用者の方との悲しいお別れがありました。子どもさん、お孫さん、曾孫さんが駆けつけて大勢に見送られておおくなりになりました。家族が遠方で間に合わなかったが、日々お世話をさせていただいた職員皆で看取らせていただいた方、梅の木寮に戻ることもなく入院中に亡くなられた方とさまざまでしたが、皆さんの天

国への旅立ちに立ち会わせていただけたことは、私にとってかけがえのない学びと財産になりました。悲しいお別れの後には嬉しい出会いもあり、新しく20名の方を梅の木寮にお迎えしました。

その中にはかつてしめなわの材料であるわらの寄付をしていただいた方もおられました。山家の「自宅近くの田んぼで稲刈りの後のわらを束ねていた時に、ふと建設中の橋げたを見上げて、あの高速道路長ーいこと工事してやってやけど、出来上がる頃には私もうこの世におらんやろうなあ。」と話されていた方が入所してくださり、本当に嬉しかったです。

あの高速道路、和知から舞鶴につながりましたね。今春は京都からも開通しますよ。梅の木寮で楽しく元気に過ごしていただき、もっともっと良くなっていくであろう世の中を一緒に見ていきたいと思いますね。

